

第5分科会（広域連携部会） 第1次活動報告

1. 第5分科会の活動テーマ

当研究会の目的である津波災害に対する被害を軽減するための対策として「津波対策に知恵を出し合おう！」をキャッチフレーズに、自治体・専門機関・民間企業・住民などが広域的に連携した防災訓練や身近で且つ実現可能なテーマについて、事例等を研究しながら論議を重ね、連携により得られるメリットや実現にあたっての問題点等を検討する。

2. 開催状況

以下の日程で部会を開催した。

- (1) 第1回 平成14年8月9日（金） 14:00～16:00 OMMビル

議題： 会員自己紹介

第5分科会活動方針および年間スケジュール案

高知市における津波避難訓練について

（高知市総務部総務課防災対策室 山本 聡 氏）

- (2) 第2回 平成14年9月8日（日）08:30～12:00 高知市立浦戸小学校

議題：高知市津波避難訓練に参加した。

- (3) 第3回 平成15年5月1日（火） 14:00～16:00 OMMビル

議題： 幹事会（4月14日開催）報告

広域連携の基本的考え方について

今後の活動計画について

3. 活動内容の概要

(1) 第1回

第5分科会活動方針案について

会員各位から自己紹介を兼ねて各自の問題意識を述べてもらった後、事務局より、今年度の活動方針案及び活動スケジュールについて説明がなされた。

活動方針に関する事務局案は、次のとおりである。

「当研究会の目的である津波災害に対する、被害を軽減するための対策として「津波対策に知恵を出し合おう！」をキャッチフレーズに、自治体・専門機関・民間企業・住民などが広域的に連携した防災訓練や身近で且つ実現可能なテーマについて、事例等を研究しながら論議を重ね、連携により得られるメリットや実現にあたっての問題点等を検討するものとする。」

上記活動方針案に対して、

「防災訓練等の身近で実現可能なテーマは言わばミクロ的な広域連携と捉えることができ、それについて議論を重ねることも重要ではあるが、一方で、発災前後における自治体間の広域連携に代表される言わばマクロ的な広域連携もまた重要な要素ではないか。」

「必ずしも分科会全体で同一のテーマを掲げる必要はないのではないかと。いくつかの小グループに分かれて、各グループが個別のテーマを設定する形式も取り得るのではないか。」

などの意見が出された。

最終的には、以下をテーマとすることで合意が得られた。

第5分科会 平成14年度活動テーマ

- 1) 防災知識の共有の在り方（防災教育に限る）
- 2) 広域連携の在り方
 - 1) 民の視点から見た広域連携
 - 2) 官の視点から見た広域連携

高知市における津波避難訓練について

講師である高知市総務部総務課防災対策室の山本 聡氏より9月8日（日）に高知市で開催される津波避難訓練の概要について説明がなされた。この避難訓練は高知市立浦戸小学校で父兄による授業参観日当日に開催されるもので、予め避難訓練の実施を知らされている学校関係者は校長及びPTA会長のみという、言わば「抜き打ち」的に実施することが最大の特徴である。

(2) 第2回

高知市浦戸小学校にて実施された津波避難訓練に参加した。その後、自治体関係者・学校関係者・住民代表者等との意見交換会に出席した。

津波避難訓練への参加

1) 参加の目的

予め避難訓練の実施を知らされている学校関係者が校長およびPTA会長のみという、言わば「抜き打ち」的に実施される避難訓練に参加することにより、実施に当たったノウハウを習得し、それを他自治体等の避難訓練にも活用し、もって防災に関する知識の共有を図る。

2) 訓練日時：平成14年9月8日（日）午前9時30分 地震発生

3) 主催：高知市・高知市立浦戸小学校

4) 参加機関

高知県・高知市・高知市消防局南消防署長浜出張所・高知市消防団（浦戸分団）・浦戸小学校PTA

5) 協力：浦戸地区津波防災検討会

6) 訓練想定

平成14年9月8日日曜日、午前9時30分、南海トラフを震源とするマグニチュード8.4の地震が発生。高知市浦戸における震度は「6弱」。浦戸小学校では参観日の授業中に地震に見舞われ、また校舎内で火災も発生。児童・保護者・先生は身の安全を図るとともに、津波の襲来に備え避難場所である旧浦戸小学校のグラウンドに地区住民とともに避難を開始する。

7) 訓練概要

- ・津波避難訓練（地震の効果音を60秒放送し、訓練開始を告げる）
- ・体験学習（起震車体験・消火体験）
- ・親子防災ウルトラクイズ

意見交換会への出席

津波避難訓練終了後、自治体関係者・学校関係者・住民代表者等との意見交換会に出席した。第5分科会会員からは次のような意見が出された。

1) 気付きの事項（感想を含む）

1) 全般的事項

シナリオを示さない訓練は非常時の対応を学ぶ上で大変効果的と思う。

障害を設けたりけが人を用意するなど訓練の環境設定について細かい点までよく考えられていたと思う。

初めての取り組みとしては大成功だったのではないかな。

地域住民も参加した運営がなされていると強く感じた。こうしたことが出来るのは地域力が強いからだと思う。

2) 訓練の緊迫感に関する事項

意外に皆冷静で整然としており、訓練とわかった段階で緊張感がなくなっていたように見受けられた（訓練の限界かな）

保護者が傍観者になっていたケースが多く、緊張感に欠けていた。

3) 先生に関する事項

個々人によるが、先生のリーダーシップが発揮されているとは言いがたい状況であった。

4) 訓練の詳細に関する事項

建物（校舎）からもう少し離れたところを歩いた方が良いのではないかな。

負傷者は誰が運ぶのか、また仮に運べないほどの重傷の場合どうすべきか考えておくべき。

スタート時のスピーカーからの音が小さかったように感じられた。

障害物が意外と障害とならなかった。

校舎入り口の庇の上に坂本竜馬像があるのは危険ではないかな（後ほど FRP 性であり、PTA から学校側に撤去を働きかけていることが判明）

ガラスの飛散防止措置を施すべきではないかな。

防災頭巾や防災マットを用意した方がよいのではないかな（愛知県の学校では生徒・児童がかぶって逃げることになっている）

2) 更なる改善のためのアイデア

保護者の防災意識を高めるため、親子一緒になって訓練に参加できるような方策を考えてはどうか。

学校だけでなく住民も含めた地域ぐるみの訓練が必要ではないかな。

抜き打ちかどうにかかわらず、可能な限り数多く実施し、住民に体験的に避難行動を身に付けてもらうことが大切ではないかな。

例えば、先生が怪我をしてしまった教室を設けたり、休み時間など児童が運動場や体育館にバラバラにいる状況での訓練など、いろいろな状況下で実施することが効果的ではないかな。

緊迫感を持たせることと負傷者を出さないようにすることのバランスが難し

い.参観の父兄にもっと騒いでもらう、放送内容にもっと臨場感を持たせる、避難に当たっての目標時間を設定するなどすれば緊迫感が増すのではないか。グループ別にチェックポイントのあるコースを競争させるなど競争原理を持ち込んだゲーム形式とすれば真剣味が増すのではないか。座布団を全ての児童に持たせておき、いざという時には防災頭巾として活用してはどうか。

(3) 第3回

4月の人事異動等によりメンバーの交代が多く見受けられたことから改めて各自の簡単な自己紹介を済ませた後、議題にしたがって議論を行った。

議題の（広域連携の基本的考え方について）および（今後の活動計画について）に関して会員各位から出された意見を要約すると次のとおりとなる。

防災対策に関して各地の取組みを調査し、意見交換を行ってはどうか。

事前対策については、前年と同様に防災教育にテーマを絞って議論してはどうか。

以上を踏まえて、今後の進め方を次のとおりとすることが決定された。

今後の進め方

事前対策に関して

防災教育にテーマを絞り、各都道府県（市区町村を含む）が実施している、または実施を予定している防災対策についてのアンケートを実施する。また、各都道府県が作成している防災啓発（パンフレット）を収集し、DB化等を行い紹介する。

上記のアンケート結果を取りまとめ、それらの中から斬新な取組事例を抽出するとともに、担当の方をゲストに招き（場合によっては出向いて）当該事例の紹介をしていただく。

紹介された事例を基に、分科会において問題点を解決する方法や更なる改善のためのアイデア等について議論を行う。

事後対策に関して

昨年度、総務省消防庁で取りまとめた広域連携について議論を深める。

なお、議論をする上で「東海地震に係る広域的な地震防災体制のあり方研究会」の関係者を招いて勉強会を開催する予定。

4. 第5分科会の会員（敬称略：18名 平成15年5月22日現在）

所属名	職名	氏名	所属名	職名	氏名
京都大学 防災研究所 巨大災害研究センター	センター 長・教授	河田 恵昭	徳島県 県民環境部消 防防災安全課	主査	篠原 守充
国土交通省 近畿地方 整備局企画部企画課	事業調整第 2係長	山村 克実	高知県 総務部危機管 理課	震災対策担 当チーフ	酒井 浩一
北海道 総務部総合防 災対策室消防防災課	防災企画係 長	眞柳 直幸	(財)日本気象協会 九州支社技術部	課長	森田 務
静岡県 総務部防災局 防災情報室	主事	加藤 裕章	(株)ニュージェック 大 阪本社河川海岸部海岸 室	課長	吉田 和郎
愛知県 防災局防災課 政策・企画グループ	主事	青井 貢二	(株)建設技術研究所 四 国支社	支社長	杉山 裕
三重県 地域振興部地 震対策チーム	主幹	中嶋 宏行	(株)日本衛生センター 中央研究所内	環境・防 災・耐震研 究部長	山本 尚明
三重県 地域振興部防 災チーム	主査	野末 孝司	朝日新聞 大阪本社防 災力取材班	編集委員	山中 茂樹
和歌山県 総務部防災 局総合防災室	主任	森本 晃	制作会社 エフエム・ プランニング	代表者(社 長)	福岡 龍史
兵庫県 企画管理部防 災局防災企画課	事務吏員	椿野 泰三	東京海上リスクコンサ ルティング(株)	主任研究員	大金 義明

（ : 会長、 : 副会長、 : 幹事）